

平成19年度青森県国庫交付金事業検討委員会議事要旨  
(経営構造対策等関係部分のみ抜粋)

- 1 日時 平成19年7月13日(金) 10:00~12:00
- 2 場所 青森市 ラ・プラス青い森 ラ・メール
- 3 出席者 14名(委員5名、事務局9名)
- 4 概要

(1) 挨拶(農林水産政策課長)

(2) 議事

案件(1)の「強い農業づくり交付金関係」のうち、経営構造対策事業及びアグリビジネス支援事業の点検評価について事務局から説明

委員： 達成率が未満の場合、重点指導をしてくださる方は経営コンダクターですが、その役割というのはかなり重要だと思います。達成率がソフト事業で4%とか18%とかあるわけですが、その中でこれから担い手農家への利用促進も一応指導の中に入ってくると思うんですが、その指導によっていろいろな結果が出てくると思います。もう一つ、ハード面の五戸町なんですが、3年目で目標を下回っているために改善計画を作成させたところなんですが、たとえばこういう計画を作成させるに当たって、行政としてはいろんな情報を提供しながら相手にいい方法で計画を作成させていただいているのかどうか、その辺のコンダクターの役割をお聞きしたいと思います。

委員長： はい、今、コンダクターの役割についてのお話がありました。これに関連して質問したいんですが、19年度からは構造政策課の農業活性化グループリーダーが担当するとありますが、昨年度までは専任のコンダクターの方がいらしたわけですね。その辺と併せてご説明いただけますでしょうか。

事務局： コンダクターの経緯についてご説明いたします。昨年度まではコンダクターの設置は、国の補助金を半分、県の補助金を半分出して10割補助という形で県の農業会議に設置していましたが、県の財政当局から100%の人件費の補助はやめてほしいということとを以前から言われていた経緯もあって、今回、国の補助金が50%確保できないということから農業活性化グループのグループリーダーが、コンダクターを兼務することになりました。コンダクター自体は今まで専任でしたが、今年から兼務になりますので、目標達成値の低い市町村、それから五戸町の改善計画等も含めて、重点的に指導し・改善していくことにしております。また、国の経営構造対策事業の外郭団体の日本アグリセンターがありますので、そこに経営内容の指導を依頼をいっしょに行っていくことも検討しております。

また、改善計画については、事業主体に対し県民局の農業担当課、あるいは当課が直接行って指導するほか関係課等の意見も踏まえて実効性のある改善計

画をつくっていくように指導していきたいと思います。

委員： 行政側としては、直接入り込むということはかなり難しいと思うんですけども、ある程度までは入り込まないといいものはできないと思います。今担当の方からのお話にあったように、形だけ、表面だけのものであれば、挫折する率というのは大きくなると思うので、その辺のところについてよろしく願いします。

委員： 五戸のアグリチャレンジャーの支援なんですが、企業化を進めるというのが一つの大きな目標であるわけですから、売り上げが21%しかないというのは一般企業だったらどうなのかな、と思っています。今後の改善見通しについて、シャモロックは企業化する可能性が高いものだからもうちょっと県として前向けに支援したいとの考えがある、みたいなことがありますか。

事務局： シャモロックのヒナの供給が18年度は10万羽位を供給する予定だったんですけども、5万羽位しか供給できなかった経緯がありました。関係課に今後の計画を聞いたところによると、あと2年くらいで10万羽ペースになるだろうという話でした。また出荷は、いろいろな部位に分けて加工していますが、価格の高い部位はそのまま販売し、安い部位はある程度調理をして出荷することにより所得の向上の余地があるということで、今年も商品化していく事業にも取り組むことにしているので、その辺を総合的に組み合わせて早めに所得の向上を目指させたいと考えています。

委員： あえてシャモロックに特化させているというのはやっぱり可能性があるからやってるんでしょうね。

#### 《途中経営構造対策事業関係以外のため割愛》

委員長： 以上で意見交換を閉じたいと思います。

県当局におきましては、本日委員の方々から出された意見を再度検討していただき、事業の推進に反映させるようお願いいたします。細かい指摘がありましたが、これも大事なことであるわけですからもう一度見直していただければと思います。以上をもちまして青森県農業関係国庫交付金事業検討会を終了したいと思います。